明治二十六年三月十一日印刷
明治二十六年三月十二日出版

（非賣品）

# 婦人衛生會雜誌

第四拾號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 大日本婦人衛生會雜誌
## 第四拾號
## 目次

講演
◎神系の經濟（前号の續）醫學士 三浦謹之助君
◎實布垤里亞に就て 山谷德治郎君
衛生叢談
○內務省令第一號
○石灰水と牛乳
○北里博士の發明したる事業
○傳染病研究所
○大阪府飲水無手數料試驗
○電氣消毒法を施行する意見
○ニッケル食器の注意
○北海道土人の食物
○濮堡港虎列剌再發
○痲疹と實布垤里亞
○柳下衛生課長の歸京
○衛生課長天然痘談
○梅毒蔓延
○三人不具
○傳染病患者
○北米合衆國陸軍文庫大に我醫學に關する各新聞雜誌類を購收せんとす
本會錄事
◎會告其他數件

## ◎本會規則摘要

◎本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開き隨て社會全般の幸福を增進するにあり

◎本會は每月一回第一土曜日集會を開き諸大家を聘し講義演說を囑し會員は勿論同親族知己の傍聽を許し且之を筆記して每月會員に頒つ

◎本會會員を分ち終身特別通常學生男子賛成員とす

◎終身會員は入會の節金拾圓以上を收むる者特別會員は每月貳拾錢以上通常會員は同拾錢學生其他事故ある者は會費五錢とし男子賛成員は每月拾錢を納むる者とす

◎入會せんとする者は何人を論せす族籍住所姓名を明記し下谷練塀町四十三番地本會事務所へ御申込あるべし

下谷區練塀町四十三番地
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 大日本婦人衛生會雜誌

## 自第壹號 至第四拾號

## 索引目錄


### 第壹號

◎大日本婦人衛生會趣意書
◎衛生のこうのう 文學博士 加藤弘之君
◎家内の衛生 醫學士 坪井二郎君
◎月經時攝生法 醫學士 榊順二郎君
◎看病法大畧 會員 岡田美壽子
◎女子のいましめ 會員 山川春子
◎本會設立の主旨 會員 荻野ぎん子
◎本會錄事
◎婦人衛生會雜誌の跋 松の舎老人

### 第貳號

◎衣服のはなし 醫學博士 緒方正規君
◎小兒の精神及保護法 醫學博士 榊俶君
◎からだの持方 文學博士 加藤弘之君
◎看病法大畧(其二) 會員 岡田美壽子
◎衛生會の効能 會員 南部隈子
◎姙婦攝生新論 醫學士 榊順二郎君
◎本會錄事

### 第參號

◎小供の精神及保護法(其二) 醫學博士 榊俶君
◎小供私已の衛生 醫學博士 大澤謙二君
◎唾液消化力の話附試驗 宮本仲君
◎姙娠中醫治を要むべき諸症 醫學士 榊順二郎君
◎看病法大畧(其三) 會員 岡田美壽子
◎本會錄事
◎育兒の手引 岡本錦吉郎君
◎大日本私立衛生會千葉支會開設祝詞 會員 小林久美子 仝 太田幾子

### 第四號

◎衛生と行政府との關係 宇川盛三郎君
◎空氣の説 元衛生局長 長與專齋君
◎婦人病の元因 長谷川泰君
◎健康保險の話 飛田良吉君
◎本會記事 事務及會計報告

### 第五號

◎婦人衛生一班(姙娠養生の事) 醫學士 櫻井郁二郎君
◎婦人病の元因(其二) 長谷川泰君
◎乳婆を雇ふべき場合及雇主と乳婆との心得 宮本仲君
◎本會錄事

### 第六號

◎婦人衛生一班(姙娠の養生)其二 櫻井郁二郎君
◎乳母を雇ふべき場合及雇主と乳母との心得(其二) 宮本仲君
◎衛生は實行にあり 醫學博士 佐々木政吉君




Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○小兒保育法　ドクトル　加藤照胤君
○小兒保育の心得　木寺安敦君
○育兒の手引　岡本錦吉郎君
○本會錄事

第七號

○衛生叢談　醫學博士　大澤謙二君
○產婦及蓐婦の養生　櫻井郁二郎君
○小兒保育法（其二）　ドクトル　加藤照胤君
○衛生は實行にあり（其二）
○小兒保育の心得（其二）　醫學博士　佐々木政吉君
○看病の話
○手療法一則　木寺安敦君
○本會錄事　會員　荻野吟子
事務及會計報告

第八號

○海浴之說　陸軍々醫監　足立寛君
○まどのお噺し　色川圀士君

○塵埃之說　醫學士　坪井次郎君
○婦人の衣服に就て　陸軍々醫總監　石黑忠悳君
○本會錄事

第九號

○婦人之美　醫學博士　中濱東一郎君
○口腔一斑　荒川脩君
○產婦と蓐婦の養生（其二）　醫學士　櫻井郁二郎君
○小兒の營養　醫學博士　緒方正規君
○本會錄事

第拾號

○一月の衛生　醫學士　坪井次郎君
○創傷之話　醫學士　芳賀榮二郎君
○無題　木寺安敦君
○乳兒の衛生に就て　醫學士　古川榮君
○明治廿三年一月偶感　宮本仲君
○本會錄事
事務及會計報告

第拾壹號

○明治廿三年一月偶感（前號ノ續）（是レヨリ隔月雜誌發行）　宮本仲君
○衛生會の皆樣に御相談　文學博士　加藤弘之君
○婚姻に就て　醫學博士　大澤謙二君
○白粉之話　醫學博士　榊俶君
○本會錄事

第拾貳號

○食物の話　醫學士　多田貞一郎君
○小兒の衛生　ドクトル　加藤照胤君
○本會錄事
附會員姓名表

第拾參號

○惡疫流行時の注意　宮本仲君
○虎列剌豫防　醫學士　坪井次郎君
○虎剌列の話　醫學博士　中濱東一郎君
○本會錄事
附會員姓名表


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第拾四號

◎食物は諸品を取雜へて用ひ單一品を用ゐざるを要す　飛田良吉君
◎看病法に就て　醫學士　笠原光興君
◎乳母及兒護婦に就て　宮本仲君
◎衞生叢話　森理記君
◎菓子に就て
◎本會錄事　附府下本所避病院への寄付に就て東京府よりの賞狀及課長院長よりの謝狀及事務會計報告等食物研究會規則等

第拾五號

◎正月の衞生　醫學士　岡田和一郎君
◎結婚と衞生との關係　醫學博士　宮下俊吉君
◎傳染病豫防心得
◎精神病の原因並に其豫防法に就て　醫學士　島村俊一君
◎雜報
◎寒中衞生法
◎小兒に牛乳を容易く飲ませる法
◎本會錄事

第拾六號（是より以降每月發行）

◎病家の醫師に對する心得　醫學士　芳賀榮二郎君
◎人の骨組に就て　大澤岳太郎君
◎肺癆療病法新發明に付素人方の心得
衞生談　元衞生局長　長與專齋君
◎痘瘡に就て
◎雜錄數件
◎本會錄事　附事務會計報告

第拾七號

◎慢性傳染病の豫防に就て　醫學士　岡田和一郎君
◎精神病とインフルエンザとの關係　醫學博士　榊俶君
◎衞生談
◎食物の撰擇
◎雜報
◎コヒ治療法實施の成績
◎コヒ液試驗
◎東京の虎列剌
◎東京の疱瘡
◎本會錄事

第拾八號

◎保育園設立に就て　宮本仲君
◎保育園規則附細則
◎本會錄事

第拾九號

◎完全無缺なる我邦の婦人よ他の風俗習弊に惑ふこと勿れ　侍醫ドクトル　樫原三圭君
◎出血の處置　醫學士　芳賀榮二郎君
◎衞生談
◎室内の採光
◎本會錄事

第貳拾號

◎保育園開園式を祝す　醫學博士　三宅秀君
◎古弗氏液試驗結果　醫學博士　中濱東一郎君
◎衞生談
◎虎列剌病流行時の攝生
◎本會錄事

第貳拾壹號

◎育兒の要点　醫學士　伊藤隼三君

○營養に就て　醫學博士　緒方正規君
○本會錄事

第貳拾貳號
○傷をした時の心得　醫學士　伊藤隼三君
○女子の健康は國家の健康なり　醫學士　三嶋通良君
○本會錄事　附事務及會計報告

第貳拾參號
○精神の養生法　醫學士　島村俊吉君
○躰育に就て　ドクトル　北川乙二郎君
○衛生談　○食物の適否　○衛生箴言
○本會錄事

第貳拾四號
○躰育に就て(其二)　醫學士　北川乙二郎君
○歯の養生法　高山紀齊君
○衛生談　前号の續

○本會錄事

第貳拾五號
失題　宮本仲君
○本會錄事
○會告數件

第貳拾六號
○歯の養生法(其二)　高山紀齊君
○白粉の中毒及其撰擇　醫學博士　榊俶君
○乳房の疾病　醫學士　伊藤隼三君
○會告

第貳拾七號
○會員への注意　文學博士　加藤弘之君
○天然痘の話　醫學士　岡田和一郎君
○本會錄事　附濃美震災義捐金之件

第貳拾八號
○習慣と經濟は衛生の敵　ドクトル　朝山義六君

○初生兒濃漏眼の豫防に就て　醫學博士　宮下俊吉君
○本會錄事　附事務及會計報告

第貳拾九號
○民間療病法の利害　醫學士　岡田和一郎君
○育兒論　寺田勇吉君
○衛生談　○婦人のつとめ　C　M
○本會錄事

第參拾號
○育兒論　寺田勇吉君
○衛生談　○母のつとめ(其二)
○本會錄事

第參拾壹號
○嗜好物に就て　醫學博士　緒方正規君
○人乳の話　醫學士　古川榮君
○衛生叢談　○母のつとめ(其三)　○清潔法のはなし

○藥用動物麝香獸
○海外虎列剌と內國虎列剌
○全國の痘瘡
○齲齒の原因
○神奈川縣のコレラ
○麻疹より耳疾
○雞の肺病
○本會錄事

第參拾貳號

○衣服に就て　醫學博士 緒方正規君
○木灰汁の亞細亞虎列剌に於ける試驗成績に就て　T、T
○衞生叢談
○母のつとめ(其二)　C、M
○劇場空氣試驗
○佐賀熊本の赤痢
○類似流行感冒
○魚類の貯藏法
○雞卵の貯藏法
○石鹼に砂糖を利用すべし
○本會錄事

第參拾參號

○創傷の恐るべきを說きて會員諸君に望む所あり　醫學士 岡田和一郎君
○急病救治法
○挫傷
○創傷
○出血 } 各圖解
○衞生談
動物の壽命及飲食の節度
○雜報
○埼玉縣長壽者の數
○魘睡奇談
○船病
○涼氣の製造
○如何にせば美人となる？
○レモン及橙の効用
○喘息病の大妙藥
○讀書時の注意
○各地方赤痢の景況
○本會錄事

第三拾四號

○小兒の死亡に就て　醫學博士 河本重次郎君
○食物の料理及鍋類の分拆　醫學博士 中濱東一郎君
○浴場行日誌(前號の續)　醫學博士 佐々木政吉君
○衞生叢談
○草刈
○電話機傳染病媒介
○年齡と男女との關係
○長壽は勞働者に多し
○爆燈の豫防法
○死亡と職業との關係
○本會錄事
役員改撰事務及會計報告

第參拾五號

○血の話　醫學博士 三宅秀君
○浴場行日誌(前號の續)　醫學博士 佐々木政吉君
○救急處置法
○毒創
○脫臼
○燒傷
○凍冱
○衞生叢談
○氣で氣を病む
○地方赤痢景況
○本會錄事

第參拾六號

○食物の經濟法　藥學士 丹波敬三君
○實扶垤里亞に就て　醫學士 岡田和一郎君
○浴場行日誌(前續の號)　醫學博士 佐々木政吉君
○救急處置法
○溺水
○人工呼吸法

○窒息
◎衛生叢談
○飲料物の注意
○白粉の良否を知る簡法
○結核牛病と衛生との關係
○牛疫病は人身に感染するや否や
○小兒の惡感冒
○胃臓の針
◎本會錄事

第參拾七號

◎實扶垤里亞に就て　醫學士　岡田和一郎君
◎人乳に就て　醫學士　伊東祐彥君
◎浴場行日誌　醫學博士　佐々木政吉君（前號の續）
◎衛生叢談
○赤痢治療法　○酒と煙草
○衛生上統計の必要
○衛生局長任命
○傳染病研究所
○虎列剌は郵便に傳らず
○禽獸蟲魚の齢
○烟樂
○骨灰繃帶
○衛生の進步
○醫科大學產科往診
◎本會錄事

第參拾八號

◎食塩の利用　藥學士　丹波敬三君
◎各種傳染病の固有接種法及固有治法學の現況に就て　醫學博士　北里柴三郎君
◎浴場行日誌　醫學博士　佐々木政吉君（前號の續）
◎衛生叢談
○新年　○醫師の撰擇
◎雜報
○長崎に於ける一種の傳染病○酒を嫌にする新法　○樟腦酎製法　○芥子泥の製法　○百九十九翁の養生法　○凍瘡療法　○痲疹患者　○震災地と黃疸　○地方赤痢景況
◎本會錄事

第參拾九號

◎各種傳染病の固有接種法及固有治法學の現況に就て　醫學博士　北里柴三郎君
◎吃の匡正法　醫學士　賀古鶴所君
◎神系の經濟　醫學士　三浦謹之助君
◎浴場行日誌　醫學博士　佐々木政吉君（前號の續）
◎衛生叢談
○家婦のつとめ　○姙娠　○鷄卵の鮮否を見分る法　○俯身は衛生の基礎　○格言　○傳染病救治者の死亡人員　○全國醫師現任數　○天然痘患者　○府下の流行病　○傳染病患者
本會錄事

第四拾號

◎神系の經濟（前号の續）　醫學士　三浦謹之助君
◎實布垤里亞に就て　醫學士　山谷德次郎君
◎衛生叢談
○內務省令第一號　○石灰水と牛乳　○北里博士の發明したる事業　○傳染病研究所　○大阪府飲水無手數料試驗　○電氣消毒法を施行する意見　○ニッケル食器の注意　○北海道土人の食物　○淡堺港虎列剌再發　○麻疹と實布垤里亞　○柳下衛生課長の歸京　○衛生課長の天然痘談　○梅毒蔓延　○三人不具　○傳染病患者　○北米合衆國陸軍文庫大に我醫學に關する各新聞雜誌類を購收せんとす
◎本會錄事
其他會告數件

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第四拾號
（明治二十六年三月十日發兌）

## 講演

### 神系の經濟（前号の續き）

醫學士　三浦謹之助君

幸なる哉睡眠のみ只り神系力を恢復する手だてゞは御座りません、仕事と眠の間に休息と云ふ者がわります、世が進歩するに隨ッて分業も又進んで參りますから我々身体の神系も亦一樣には疲れませんから、仕事から直に眠りに就かなくても宜敷ふ御座ります、却ッて精神を勞したる後などはしばらく休んで後ち眠に就く方が宜敷ふござります、競馬の乘手を御覽遊ばせ疲勞したる馬を直ちに止めて休ませは致しません、必ずや漸々に走り方を弱くして後ちに休ませます、又古代羅馬の有名なる「チッロ」氏は「アルヒアス」と申す詩人を譽めて詩は人の疲勞せる精神を漸々に休息さする力ありと申しました、何でも急なる變化は休息と雖も漸々なるに劣ります、今例之ば甚しく多忙なる人が二三週間の暇を得ましても、夫れ丈けの補養にならないのが常であります、夫れはドー云ふ者でアローと云ふに急に繁忙なる所より樂になり、扨て休暇中旅行でもすると何も爲さずに居る内に最早休暇の日も無くなり、家に歸ッて見ると用事が山の樣にたまつて居て再び精神と神系を勞働さする故に休暇は其功が無いとになりますから、矢張り一週に一回づゝ日曜日を休息日と定め一週間の借金づゝ拂つて行く方が宜しいのであります又神系と精神の力と云ふ資本を大にする第三の方法があります、夫れは演習（稽古教育）であります、演習と云ふ者は實に奇妙なる者でありまして始めの程

は六ヶ敷者でも演習が積みますと漸々容易になりまして遂には自ら驚く程容易くなります、筋肉は用ふる程強くなりますか、夫れと同じく運動の神系も知覺の神系も五管も記臆力も考へる力らも演習に由ッて強くなります、例之ば舞蹈や乘馬先生の如き、按摩の指の先の如き、音樂師の耳の如き、話し家の口先きの如き、茶ずきの舌の如き、役者の顏の如き、算術家の胸算の如き、僧侶の御經に於けるが如き、漢學者の生き字引なるが如き、學者の理くつを併べるが如き、皆神系と精神とを演習したるに由ります通常は之れを稽古とか敎育とか申しまして唐人も習爲ㇾ性と申し西洋人も習慣は第二の天性と迄申しました、然れとも此演習ある者は、決して急に施す能はざる者で又急に施こさんとするときは疲勞と申者が參ります故に漸々に之を爲さなければありません。我々は我々の記臆力を演習せなければありませんが

小兒を敎育するとは其若き腦中に無暗に學問をつめ込むことゝ思ふと大ひに違ひます、漢學でも洋學でもこれ等を探す爲めには字引がありますが之を引出す字引はありません、之れに反して演習したるときは腦裏に止まッて居りまして用に際して思出します故に神經學方から云へば學校の務む可き者は無暗に人に學問をつき込むのではなく、學校の敎課中にある者に由て精神と神系を演習しますのことで、本務であります、故に体操をさせらるゝときはこんなとは一生用ふることが無いと云はずに之れは筋肉を强壯にし身体の健康を益し後來力を要するときの稽古と思はあくてはありませんし、方今小學校に英語科があるのは後に皆な忘れ忘れあくとも少しばかり習ふては益あしと云はずに矢張り之れは洋學の考を練る爲めと思はなければなりません、然れとも此演習なる者は度を越へてはなりません、弓も强く張り過ぎれは

折れ、蒸氣の釜も十「氣壓」に止まる可きを十五「氣壓」迄持行くときは破裂します、故に教育も度過ぎれば爲めに神系の病を起す誘因になります故に演習も亦疲勞の感覺を度とおす可し。

何故に方今は神經の病が昔より多いか我々の先祖とても徹夜をして艱難苦勞をしましたが神系病に罹ッたと云ふことをあまり聞かなんだ、人間が今は別になッたであろうか人間の衛生が不行届になりた者なるやと申しますと決して左様では御座りません、多くの神系病患者は己れの過失なしに病に罹りましたので御座ります、我々の生活して居ります時世が病を引起すので御座ります、委敷申しますれば人口が增し大都會には數多の人が住居し人と人との關係が益々繁く業務は益々多端になり、隨ッて電信電話から馬車滊車すべて交通の便が開らけ一人一個の負擔が大きくなり、生存の競爭が盛んに生活は困難になり働かざれば世の中に立つとか出來なくあり、政治上及び宗教上の爭いも戰爭等の虞れも益々多くありすべて神系力の支出が多くなれとも之れに反して休息の時間就眠の時間等休暇等ある収入が段々少なくあるとも多くなるとが御座りませんから、人間が神系の病に罹り易き素因を取り一回神系を勞すると度に過ぐれば病を起し易くなります、又人間が多く働かねばならなくなれば之れを慰むる爲めに酒煙草の類を多く用ひ、其種類も亦隨て多くなり、之れが爲めに神經病を起すとも御座ります、又職人等の用ひまする品には鉛や水銀等の毒物が多く用ひらるゝ樣になります、例之ば御婦人方の「オシロイ」の中のみならず家をぬる「ペンキ」の色の中にも鉛がありまず、又鏡製造人ばかり水銀を用ゐず「シャッポ」を造る者も金物師等も水銀を用ひます、又滊車が開けますと其衝突の爲めに神系の病を惹起すことも出

來、電信や電話の役人は雷のなるときには、電氣の爲めに打たるゝこともあり、一方に便利なとか起り害きとが出來ますれは一方には險あるとも出來るは數の免がれざる所でわります。

然らば此等神系病の原因となる者を取除けるとは出來ぬかと申ますに隨分出來ないとは御座いません、世の開け進むのは之れを止むるとも出來ず又た之れを止めては成りません却て之を助けなければなりません、我々の鼻と目を煩はす石炭の煙りは段々之れを廢し他の力らを以て之れに代ふる工夫をし、汽船汽車の衝突電信電話の險等は之れを避け、衣食住より社會の狀態を改良し生活の困難政治宗教上の爭ひ等幷に商賣相塲上の心配等が段々減ずる樣になる仕組はすべて之れを助け、又小兒の敎育等にも注意をしなければなりません、此終りの者は最も本會に關係を要する者て御座りますから一言せねばなりませんが、小兒生れて后ち五管の働らきに由り段々精神と神系を練りまするので小兒の敎育者は之れを正しき道に導びく可きで御座ります、彼の小兒の遊びなる者は一旦致しまするこ誠につまらない樣に見へまするが、其中自づから神系と精神を練磨する元素が含んで居りますのは小兒が始は只物を以て遊び其物も目的なしに之れを動かし之れを破壞して居りまするが段々他の小兒と共に遊び又は物を適當の用に遣ひ大人のまねをし又遂には物を造る樣になりまするにても明かで御座ります、元より小兒とても一定の年齡にあれば規則正しき敎育を受けなければなりませんが、未た口も充分まわらざるに本を讀ませ又物を言ひ聞せるにしても、餘り細かきとに迄立入るは却つて害になります、「ヘルメル」と申す人が著はしたる「プリシス、ローザー、ストラミン」と題した書の中に左の語が御座ります「兩親よ敎師よ小兒は小

…小兒の精神は花のつぼみの正に開かんとするが如し徒らに其花粉を落して學校の塵埃を其上にまくと勿れ、自然の太陽の温を受けて開き得る花を強て人工的の室に入るゝと勿れ、欣然たる顔面を紅に染むる血液の循環を罵詬の暗誦に出て妨ぐると勿れと」實に左様で御座ります、小兒の教育は草木の生へ出る上にある石の如く其自由なる發育を害し、又は馬に鞭ッ鞭の如く無理に之れを進めてはなりません、宜しく上手なる馬乘の取れる手綱の如く只之れを正しき道に導くてこそ教育で御座ります、又小兒に宗教の念を教ゆるにしても度に過れば若き腦髓の中に種々の盲想を引起すの憂か御座りましてそれが爲めに起れる神經病の例は幾らも御座ります、又小兒を甚しくしかりましたり頭を打ちましたり驚かしましたりするとが害になりますし小兒の歯の生ゆる中又成長して春機發動期則はち男子あらば聲の變するとき、女子あらば月の物の現るゝときには殊に神經の病を起すとが多くありますから此頃には精神の感動等は可成避けなければならず又結婚のときは神經病のある家と神經病のある家と親類となると、又は近き親類にて互に相結婚すると等總て神經病の素因を招くとを爲さず、業務の多端なるに當ッては前に申上けましたる休息と睡眠と云ふ二ツの神經力收入の道を開て置きましたならば之れも亦國家に忠義なるの一で御座りましよう(完)

## 實布埡里亞に就て

醫學士　山谷德治郎君

明治二十六年二月十二日例會麹町區富士見倶樂部ニ於テ演説

私は本會の招聘を忝のう致しまして、今日此席に出て、一場の演説を致しまするのは私の學問に對し、



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

且つ私の地位に對しまして、最も榮譽とする所でござります。私は兼て醫學を修めました者で、衛生の事に就ては平素少しく注意を致しまして、殊に衛生に關する雜誌杯をも發刊致しまして、常に此点に注意致して居ります、是れ迄も度々衛生會杯に出まして、衛生の御咄しを致しましたら、斯く盛大なる而も我國の上流に位ゐせらるゝ貴婦人令嬢方の御集りの席で、演說致しまするのは、最も私の榮譽とする所で有ります。

扨衛生と云ふ事の始めて我邦人の口に上りましたのは、十四五年以前の事でありまして、一時は非常に盛んにて衛生と云ふ事は、恰も人の口癖のやうに、寄ると障わると、衛生々々と申しました。其當時の有樣を觀ますると、衛生會は諸處に起り、衛生演說も各處に開かれ、又衛生に關する新聞雜誌等も種々發行になりました。然るに此四五年以來に至りまして、衛生の事も餘程衰へ、衛生會も少しく寂寥となりまして、衛生演說會を開いても一向傍聽人も無いと云ふ有樣で御座います、又衛生に關する雜誌等も追々廢刊するやうになりました。斯樣の時にも拘らず此婦人衛生會のみ益々盛大に向ひますのは、實に會の役員、並に會員諸姉の終始變らざる御熱心に因ることゝ感服の外は有りませぬ。

箇樣に人々近時衛生の事に冷淡になり、又衛生會の衰微した有樣を考へて見まするに、今日に於ける我國の衛生と云ふものは、果して五六年前に比へて退步したのでは無いかと云ふ一の疑問が起らうと思ひます、併しながら或人の申すには、成程衛生の事は表面上より見れば衰微したやうではあるが其實は決して衰微したのではない。一口に云へば、以前に於て衛生の大變に盛らしく見ゐたのは、所謂衛生上の言論の時代で、唯人々が猥りに喋々と衛生の事を論

したのであるが、併し今日は實行するやうになッたので、即ち言論の時代より實行の時代に移ッたのである。衛生の事は今日表面上は衰へた觀は有るけれども、其實決して衰へたのではなく裏面に於ては着々實行さるゝに至ッたと、或人は申します。成程是れも一理なる説ではござりますが、併し又深く考へると、此議論たるや、一を知ッて其二を知らざるもので、深く實際を穿ッた議論とは申されないと思ひます。

皆様御承知の通り、衛生には二様ある。即ち公衆衛生と申して、國家公衆に關係するものと、一人一家に關係する個人衛生と云ふものが有る。斯くのごとく衛生をば二ッに區別しなければならぬ。此公衆衛生は、如何にも或る論者の申せし如く、言論の時代より實行の時代に這入たかと、思はれます。其事實を一二擧げまするなれば、數年前に於ては、水道の如き、下水の如き、傳染病の如きものに就きまして人々水道は敷設しなければならぬ、下水は改良しなければならぬ、傳染病豫防は斯く〳〵しなければならぬと、箇様に喋々と論じました。ソレが此頃に至ては、表面口に唱へる者は少くなりましたが、却て水道も漸次敷設され、下水も追々に改良さるゝやうになりました、又傳染病も研究所が立ちまして種々豫防の事が研究せられます。ソレ故公衆衛生といふものは、表面上は如何にも靜かであるが、其下かなるは、論者の云ふごとく、言論の時代より實行の時代に移りましたので御座います。

然らば、個人衛生は如何であるか、此一人一家に關係した個人衛生の事に至りましては、私は決して論者の言の如く、言論の時代より實行の時代に遷り入ッたといふ事は云へないと考へます。二三の例證を擧げますれば、彼の七八年前一時非常に世の中に流



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

行しましたる御婦人方の御頭は――――是れは經濟上よりと、モ一ッの重なる主義は衛生上からして、束髪の利有る事を非常に說いた人が有ります。ソコで御婦人方は立派なる島田髷、銀杏返し、丸髷等をやめて、餘り恰好の宜くない束髪に御改になつた。其當時私は御婦人方の英斷には殆と感服致ました。斯樣に英斷をなされたも、衛生上の必要に促されて行はれたに違ひない、故に此事は衛生上の美事と云はねばならぬのでわります。ソレが如何でございますか、近頃又束髪は廢つて、再び以前の立派なる島田髷、銀杏返し等に戾ッて參りました。又御婦人方の御用ゐになりまする白粉も衛生に害有る事を頻りに衛生學者が唱へた所から、一時は大分白粉を用ゐるものが少くなッて、商買人は非常にこはして居ッたが、近頃ソロ〳〵と衛生の事抔を御理解なすつた方々の御首筋が白くなつたやうに、私は見受ます。

男子に於きましても五六年前は、肉食と云ふ事が流行しまして、書生は書生らしく「ドウダイ君の下宿して居る所はドンナ物を食はせるネ」「僕の所は芋位ゐのものだ」「ナンダ十九世紀の人間の肉食しない事があるものか」抔と鳥渡した咄しにも左樣な事を申して居りました。又送別會とか、或は祝宴とかを開くには多く西洋料理で致しましたが、此頃では西洋料理は廢れて、何でも胸襟を開くには、日本料理に限ると申して、日本料理で祝宴を開くやうになつて參りました。斯樣に個人の衛生と云ふものは四五年以前より見まするど、今日では甚だ遺憾では御座いますが、先づ衰へたと云ふ斷定を下すより外はない。公衆衛生は如何にも言論の時代より、實行の時代に這入ッたので御座いませう、ソレ故表面上は余り嶮しくないが、裏面では着々實行されて居る事が事實の上で現はれて居るけれども、個人衛生は決し

[illegible]

[illegible]の事、育児の事、児童の衛生の事、老人看護の事、[illegible]病人の看護の事[illegible]

[illegible]

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

人に其罪を歸せなければなりませぬ。是れに反して一家安全家族健康で有りましたならば、其功は誰れに有るかといへば、主婦に有るのでございます。斯やうに婦人は重大の關係を個人衛生の上に持て居りますから、苟も我國の個人衛生を盛にし、延いて公衆の衛生を圖らんとしますには必ず普く婦人に衛生想思を及ぼし、且つソレをして、益々進ましめなければなりませぬと思ひます。然るに從來諸處に在る衛生會を見ますると、皆男子に依て組織せられ、又演說會を開いても、聽衆は皆男子である、ソレ故是等の衛生會を以て、個人衛生を盛にしやうと云ふには、少しく不便利なるのみならず、斯樣な會斗りでは、決して個人衛生を盛にする事は出來ないと私は考へます、然るに當婦人衛生會は多くの貴婦人令孃方を以て組織され、御集りになりまするも、御婦人方ばかりで有りますから、個人衛生の道を充分に進歩させるには、最も此會が適當で有ると思ひます、何卒會員諸姉効を永遠に期せられまして、充分に御熱心御盡力あらん事を冀望致します。

以上申上げましたのは、私が今日演說を致しまする其前に、本會の必要なる事を感じたる要旨を一言御咄しを致して、皆樣方の御注意を求めました次第で御座ります。先づ是れを叙言として是れから、何か一ッ御參考になる御咄しを致さうと思ひます。

全体私は、昨年十一月に當會の幹事村岡夫人から御訪ねを受けまして、御前は東京音樂學校で聽官、發音の話しをして居るそうであるから、咽喉や、耳の衛生の事を話て呉れぬかと云ふ御依頼で御座りました故、私は直ちに御承諾を致して、其事に就て皆樣の御清聽を汚す積りで居りました。然る所同月十二日突然國に居りまする十一歲の妹が急病で危いと云ふ電報に接しましたので、直樣旅裝を整へて二百余

里もある岡山縣下に歸省致しました妹の病氣は電報に依ると咽喉の病氣と云ふので有りますから、多分實扶垤里亞と察しまして、子供に取ッては甚だ危險なる病氣で有りますから、大方歸り着かない中に死するで有らうと覺悟は極めて居りましたが、子供とは申せ年も取て居りますから、旅行に費します二日間位は或は幸にして命を保て居るかも知れないから充分に治療を盡して見やうと思ッて出ました、所が不幸にも私の神戸に着しました頃に、小妹は私の歸るのをも待たず、朝露と共に消え失せまして、つまり、私は罪も無い子供の死顏を視に歸ッたやうで御座りました。後は葬式を濟ませ父母を慰むる等の爲めに二週間ばかり逗留致しました爲め遂に開會に間に合ひませんで、折角御約束をして置きながら、間際になつて御斷りを申すやうな次第で御座いましたから、序でに一寸と御詫びを致して置きます。當月になりまして又々御話しをするやうにとの事で、ございましたで、何か一ッ御咄しを仕やうと考がへて居りましたが、咽喉や耳の事を今日御話しせよと云ふ御注文ではございましたが、此事に就ては、其專門家の賀古先生が屢々御咄しをなさると云ふ事も承ッて居りますから私か此事を御咄しするのは重復になつて無駄であると考へまして何か外の事に就て御咄しを仕やうと思ふて居りました、所が昨年私の妹か實扶垤里亞でなくなりまして、ソシテ夫れか爲めに私か先回に欠席したと云ふ因緣がありますのとソレから此頃大分府下にも此病に罹るものかございまして。既に當會の會員大澤醫科大學長の御夫人も御罹りになり、現に大澤博士も之れに罹られて入院されたと云ふ事で、子供斗りでなく、大分大人にも來ると云ふ噂さでございますから、今日は實扶垤里亞の事を御咄し仕樣と思ひま

す。併し皆様も此病に就ては充分に御承知で御座いませうし、且つ屢々諸大家先生の御演説も御聴きにありましたらうと存じます、殊に一月及び二月の當會雜誌に北里博士の諸傳染病の御演説も載ッて居りまするから、細かい御話しを申上げた所が時間を費す斗りで、役に立ちませぬから、今日は搔い摘んで御話しを致し、且つ實扶垤里亞を惹き起す病毒を顯微鏡に掛けて、御目に懸けやうと云ふ考へで御座います。

實扶垤里亞は皆様御承知の通り、多く小兒に參りまする所の傳染病で御座います、小兒に最も恐ろしい病氣と申せは實扶垤里亞と腦膜炎で是等の病の爲めに命を落します子供は澤山有る。皆様の御家にも或は御兄弟あり或は可愛い御子様方が實扶垤里亞に御かゝりなされた事も有らうと思ひます。實扶垤里亞は余程急性の傳染病で御座います御承知の通り傳染病にも急性と慢性とか御座りまして例は肺癆や癩病の如きは慢性の傳染病でありますか實扶垤里亞は急性而も急性中の急性なるものでありますソシテ傳染病と申せは一口に云へは一定の固有なる病毒を有しまして人から人へと傳播蔓延するものでありまして其の傳染の模様には種々御座ります則ち直接に人から人に空氣の媒介に因て傳染するのと、又空氣の媒介に依らずして、飲食物の媒介に因て傳染するものも御座います、又此兩方の道を取ッて傳染するものも有る、例之ば虎列刺、腸窒扶斯は、其毒が腸の中にありまして、吐瀉物に充分含まれて居りまするから、其吐瀉物から多くの道を經て、飲物食物の中に混じて人の体に這入る、或は空氣の媒介に依て來ると云ふ說も有りますが、未確かに分らない先づ重に右の道路を取るのであります。又空氣の媒介にて直接に人から人に傳はる傳染病、即ち實扶垤里亞、痲



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

疹、痘瘡斯やうなものは空氣の媒介に依て甲の人より乙の人に傳染致します。此く空氣の媒介に依て傳染するものは、其豫防も困難で御座います。實扶垤里亞は即ち此空氣の媒介に依て、甲の人から乙の人に傳染する病氣で御座います。御承知の通り、實扶垤里亞は最初咽喉に起ります。併し咽喉丈けの病氣では有りませぬ、全身病と申して、身体中の病氣でございます、只病氣に著しい變の有るのは咽喉でございます。そして實扶垤里亞に罹ると、全身が病に侵されると申しても、病氣を起す、毒素が身体中に廻ると云ふのでは無い、毒素が一ッ場所で澤山に殖ゐ、夫れから毒を産生しまして身体中にまわると云ふ次第で御座います。今此病氣を起しまする病素は、ドンナ物であると云ふ事に就て、御咄しを致して置きたいと思ひます。

以前より分ッて居りまする傳染病或は近來に至りて傳染病であるといふ事が分ッた病氣でも、總べて傳染病には、何か一ッの病を起す病素、即ち其病原物がなければならぬ。ソシテ此の病ひを起すものは、動物性のものであるか、植物性のものであるか、明かには分らないが、兎に角病氣を起す毒素が有る。其毒素に感染すれば、縱令ば甲の人にても乙の人たりとも、其病氣に輕重こそ有りまするが、必ず同じ病氣をおこします。故に傳染病には其病に固有して居る病原物が無ければならないと云ふ事は、夙に斯學者の着眼致して、充分に研究しました所で、今日では數多の傳染病の中には已に此の病原物が明かに分ッて居るものも澤山有りますが、未だ不明に屬して何は研究しつゝあるものも數多く御座います。傳染病を惹き起す病毒といふものは、極く下等の動物性のものか、極く下等の植物性のものでございます。殊に多くの傳染病は植物性の病原物に依て起る

のが多い。ソシテ下等の植物性の病原物には種々御座いますが總稱して黴菌と申し即ち平たく申すと菌で御座ります、是が多くの恐ろしい、傳染病の原因となるもので、例之ば虎列剌にしても腸窒扶斯にしても。實扶垤里亞にしても總べて黴菌と申すものが御座りまして、其形や性質抔は既に明かになつて居ります。又學者の間に何の病の病原は如何なる黴菌であると云ふ事を唱ねても、未だ說の確定しないで、互に議論して居るものも有る、又彼の癩病　肺病　等の極く慢性の傳染病も黴菌に依て起るものでありま す、ソシテ其黴菌を撿査しまするのは、隨分骨の折れる仕事で、學者の非常に苦んだ事でございます。若し之が大きなもので、からだの表面に附いて居ッて、人間の眼を以て見らるゝものなれば、何も苦む事はないけれども、非常に小さな物で御座いますから、充分に强い所の顯微鏡を以て撿査しなければ分りませぬ。顯微鏡で撿査致して能く其形か分つても其儘では果してこれが實扶垤里亞の病原となるもの乎之れか腸窒扶私の病原となるものかと云ふ事は、確かと解らない。ソレを確めるには外で養ひ、充分に成長させて、他の動物に植ね、或は飮ませ、其動物が腸窒扶斯、或は實扶垤里亞と同じやうな症狀を現はしましたならば、始めて腸窒扶斯、實扶垤里亞の毒で有ると云ふ事を確めることができます。併し同じ人間ですら多少の變りが有るので御座いますから、人間と動物とは素より同じ病にても多少模樣か變ります故に出來得べくば其病毒を取つて、一々人間の身体に植えたならば眞正に其病を起しますから早く分りますが、到底犬や猫のやうに人間に就て試驗する事は出來ない。ソレ故此撿査をするにも、余程困難のことで有りました。併し獨逸の「ペッテンコーフエル」と云ふ七十歲斗りになる有名の衛生學

た「コッホ」の發明したる虎列刺微菌は、——此微菌のみに依て、虎列刺を起す事が出來やうか、此微菌斗りでは、虎列刺病を起すことは出來ない必ず他に土地と人の体質との關係か合しなれはならぬと云ふ議論を立てゝ居りましたが、昨年秋同國に虎列刺の流行しました時虎列刺病患者の便を取て充分に其微菌を成長させて「己れも最早七十歳余で、近來老病でもあるから、世の中に活きて居ッても何の役にも立たず、誠に余計な身体であるから、世の中の爲め、醫學の爲めに、自分の身体を犠牲に供して「コッホ」の云ふ微菌のみて虎列刺か起るか否かを確めたい」と云ふて、大膽にも恐ろしい虎列刺の病毒を飲みました、斯様に危險な試驗を致してまでも、片時も速かに其事を確めんと欲して居ります、かく世界の學者は辛酸を嘗めて傳染病を研究して居りますが、自今は熱心の余り斯様な事をやる人も追々出きて參るやも知れませぬ、特志の人が自分で爲るのなれば格別人間に就て一々試驗する事は到底出來ませぬ故、病毒を試驗するにも動物に就てするのであるから、困難の点も數多く有ります。ソコで實扶垤里亞の病毒で有りますが、是はドンナ處に生して居るかと云ふに、先つ實扶垤里亞に罹りまする人の咽喉には充血と申して、血が寄ッて赤くなるソコに薄い紙とか布のやうな膜が出來ます、其中に實扶垤里亞の病毒が澤山含まれて居る。從て其病人の痰唾にも病毒が混して居る。ソレをとつて外で育て、色を着けて五六百倍の顯微鏡に掛けて視まするとごくちいさき赤色を帶びた棒のかたちになつて居るのが見ゑます、ソレが即ち實扶垤里亞の病毒で、是れをば實扶垤里亞「バチルス」と申します。この病毒に就て色々細かい御話しを致しましたところが、素人方には無益でございますから、余りこまかい



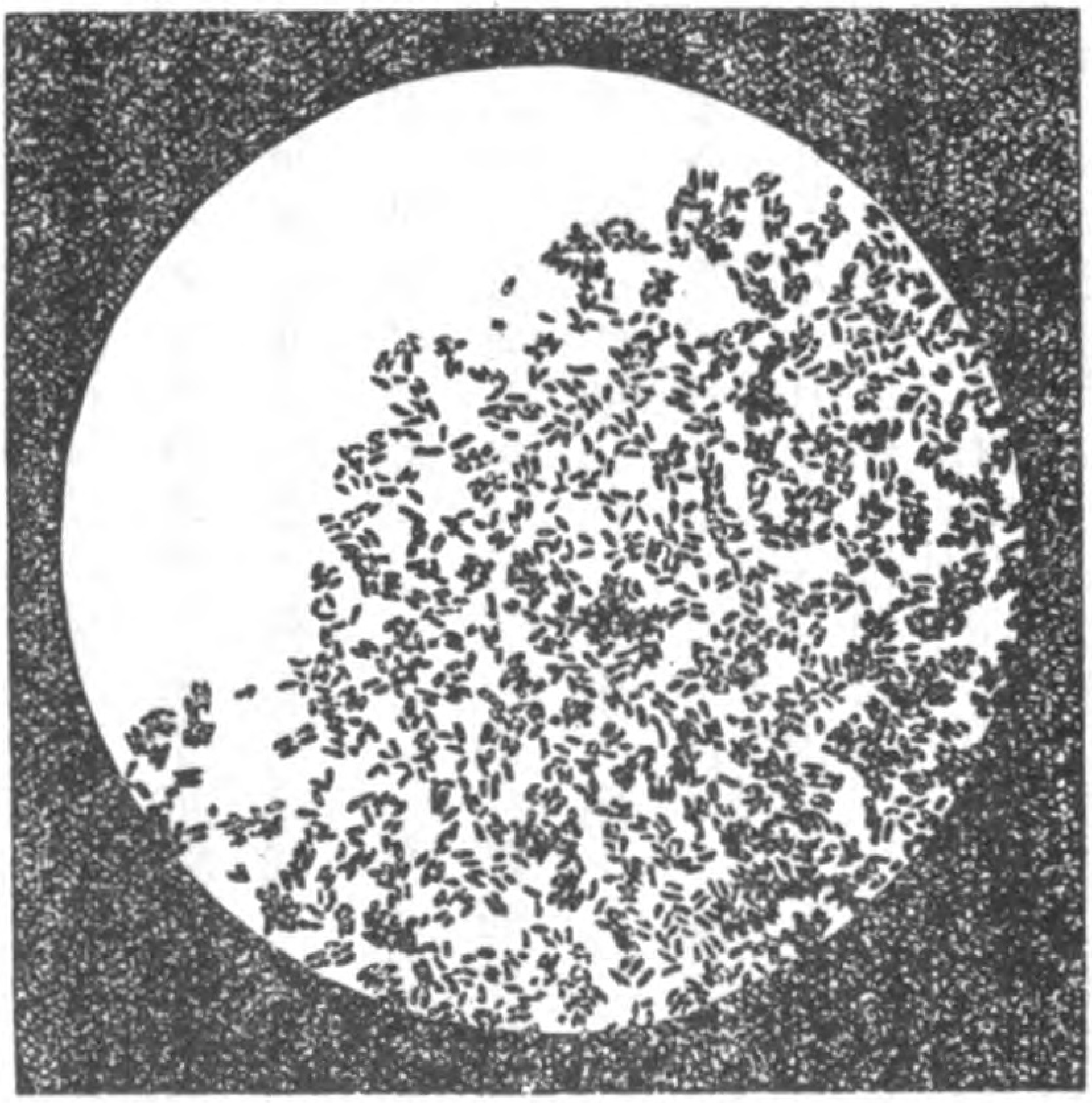
Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御話し致しませぬ、其大きさも五六百倍の顯微鏡で始めて人の眼に見える位ゐで有りますから、想像しまするど非常に小さきものであります。爰に實扶垤里亞の病毒の寫眞を持參致しましたから御覧に入れます。（實扶垤里亞病毒五百倍の寫眞を示さる）

終りに臨んで一言實扶垤里亞の豫防法に就て御話しを致します。實扶垤里亞は只今申上げた通り、空氣の媒介に依て人から人に傳染する病で、殊に小兒に多く來たり其の流行は自ら季節が御座います。總べて傳染病は時を擇んで流行致しまするが、實扶垤里亞も亦其の通りにて先つ春先きが多く、又秋には隨分あります、其豫防法の最も必要なるは、實扶垤里亞患者の有りまする處に、他の子供を置く事は固く禁じ他に避けさせて一の家に置かないのが最も大切で、又最も確實なる豫防法であります。學校幼稚園杯に於ても實扶垤里亞に罹りました病人は、極く始めの中、自分には少しも苦しく有りませぬ時には、一向心附かないで、學校に往く事が有りまするから、學校の教師杯は充分に注意し若しソウでは無いかと心附いた時には、直ちに休校を命ずるといふ事は必要で御座います。又烈しく流行する時には暫時閉校して、之を避けるのが肝要であります。又實扶垤里亞患者の在る家に子供を連れて往く事は禁じます。或は空氣の媒介に依て、實扶垤里亞の無い所にも其病毒を持つて來る事が有りますから、其土地を去つて仕舞ふのが何より安全の法ではありますが、しかし是れは行ひ難い。ソレから子供は成るべく風を冒かないやうに注意しなければなりませぬ。若し風を冒き、或は容子の變りました際には自分の信ずる醫師に診察して貰ふが宜しい、殊に實扶垤里亞は急性の病氣で有りまするから、僅か一時間を爭ひますし、實扶垤里亞と定まつて治療するのと、診斷が

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遲く附くのとは、其結果に至て非常の差が有りまするから、傍らに附いて居らるゝ御婦人方は能く御注意なさらねはなりませぬ、又此病の流行しまする際には朝暮寒冷の氣に觸れない樣にし又高聲にて唱歌談話抔するとを禁せねばなりませぬ。此頃府下に流行する實扶垤里亞は少しく摸樣が違つて居ると云ふ事を北里博士の御話しにも承りましたし、又只今賀古先生の御話しを承つて見ても、眞性の實扶垤里亞とは違つて居るそうで御座います。或は中には他の咽喉の病氣を實扶垤里亞と間違へて居る事も御座いませう。併し又實扶垤里亞に余程能く似て居る病氣も府下に流行するそうで御座います。且つ此頃の實扶垤里亞は小供斗りでなく大人にも大分來るそうでございますから、ソコ等の見分を附けるには、余程充分に經驗と學識とを備えて居る醫師で無いと、鳥渡誤ることが有りますから、特に此點に御注意あらん事を冀望致します。



（實扶垤里亞黴菌ノ圖）

（一千倍）

又一旦實布垤里亞に罹りました時には醫師の差圖通りに嚴重に豫防法を守りまして他の者に傳染するのを避けなければなりませぬ。

實扶垤里亞の御話しは、これで止めまして、實扶垤里亞病毒の實物並に序でを以て、虎列剌、腸窒扶斯、肺病等の病毒を寫眞に取りましたものを御參考のために御覧に入れます

（總て虎列剌「バチルス」腸窒扶斯「バチルス」及結核「バチルス」（肺癆の病毒）の五百倍の寫眞並に實扶垤里亞「バチルス」を顯微鏡にて示さる）

## 衛生叢談

◉近頃坊間に販賣する諸物品に衛生局又は衛生試驗所の保證或は試驗濟など猥りに右文字を記入する等の弊を除かん爲めにや今回左の通内務省令を以て公布せられたり

## 公文

◉内務省令第一號

衛生試驗所ノ印紙ヲ貼布シタル藥品ノ外凡ソ物品ノ廣告掲示印刷物又ハ其容器包紙ニ衛生局又ハ衛生試驗所ノ保證又は試驗濟其他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ得ス若シ衛生試驗成績ヲ表示セントスル者ハ其成績書ノ全文ヲ記載スヘシ之ヲ增減變更スルコトヲ得ス

此省令ニ違背シタル者又ハ衛生試驗所撿査ヲ詐稱シタル者ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス

本令ハ明治廿六年七月一日ヨリ施行ス

明治廿六年一月十九日　内務大臣伯爵井上馨

## 石灰水と牛乳

小兒に與ふる牛乳に石灰水を和せる目的は特り石灰を體内に輸送るに止らずして牛乳の消化性を扶るに在り純牛乳は小兒の胃中に於て凝固り乾酪様の難溶

性塊となれども石灰を加へたる牛乳は絮状の沈澱を生す彼乾酪様のものは酸敗醱酵して腸胃加答兒（小兒虎列剌）を發することあり故に殊に夏分は石灰水を牛乳に加ふるを可とす而して其量は一吸乳器分に付大約一食匙を要す又牛乳は必す一同煮沸して殺菌するを安全なりとす（右近刊藥）

## 北里博士叙勳の次第

醫學博士北里柴三郎氏が勳三等に叙せられたるは氏が醫學上に致したる功績の偉大なるに出ることとなるが内務大臣が氏の叙勳を奏請せんがため省僚に命じて取調べしめたる氏の功績なりと云ふを聞くに其の條項は左の如し此等は何れも去る明治十九年より二十五年迄の間に獨逸文に綴りコッホ及フリヱゲ兩氏の主筆に係る衛生及び傳染病新誌に掲載して世に公にしたる學說なりと云ふ

發明したる事業

一破傷風病黴菌及之を人工的に純養する方法

一酔疽黴菌を人工的に流体及固形養基に純育する方法

一窒扶斯黴菌の自他類似の黴菌に異なる「インドル」反應を呈せざる所以

一實扶垤里亞病及破傷風を免疫せしむる方法

一麝香菌の發見

一螺施菌の發見及之を純養する法

一流行性感冒（インフルエンザ）黴菌を純養する法

研究改良したる事業

一窒扶斯及虎列剌黴菌の酸性及亞爾加里性營養基に於ける關係

一虎列剌黴菌の乾燥及温熱に對する抵抗力

一虎列剌黴菌の乳汁に於ける關係

一虎列剌黴菌の人糞中に於ける關係

一虎列剌黴菌の人工營養基中自他の病性及非病性



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

黴菌に於ける關係

一 脾脱疽黴菌の地府中に於て芽胞を形成する關係

一 非酸素黴菌の研究三件

一 破傷風病毒の動物試驗

一 肺結核及黴菌自他の病的黴菌喀痰中より純養する法

一 虎列刺窒扶斯實扶垤里破傷風丹毒脾脱疽病及自他病的黴菌の免疫及耐毒法の研究

一 コッホ氏ツベルクリンを結核性動物に試驗したる成績

一 破傷風病を耐毒血液にて治療したる成績

## 傳染病研究所

同研究所は醫學博士勳三等北里柴三郎氏を其所長とし大日本衛生會之を設立せしが同研究所補助費を國庫より補助するの議案は去月廿三日多數を以て衆議院を通過せり北里醫士の名聲のみならず醫學上の名譽と云ふへし

## 大阪府飲水無手數料試驗

大坂府飲水試驗所にては飲水試驗の缺くべからざるを説き一人一日一升の水を飲むとし其中一分有害物を含むとすれば一年間には既に三拾六匁六分の有害物を躰内に送る割合にて知らず識らず幾多の病源を釀す次第なれば苟も生命の貴重なるを知り其試驗希望のものは酌採三日後同所に送らば無料にて其望に應ずべしと去月二十六日市内各戸に通知せりといふ

## 電氣消毒法を施行する意見

獨逸の某學士はエルベ河及其他の河川に電氣を用ゐて消毒法を施行するの説を主張する由なるが其説に據れば電流を水中に導けば爰に化學的の變化を來し而して水中にある虎列刺及其他の病芽は之れが爲に亡滅すへし又下水に消毒法を行ふにも此方法を用ふ

## 鑷結兒食器の注意

鑷結兒を以て鍍金せる食器は日を逐ふて盛に使用するときとなりたれ共大に注意を要す如何となれは「ニッケル」は有機酸に多少溶解するの性あり殊に纈草酸には多量に溶解するが故に纈草酸を含有する乾酪の如きものを煮るには「ニッケル」の器を以てすべからず

## 北海道土人の食物

近來は土人の穀物の味ひを知らず市中に出で丶米を購ふものあれども山中に住する土人は今日も尚山百合の根を堀り之を常食となすなり夏秋の間に多く之を堀り先づ湯煮となし更に之を煉り丸餅の形に固め一個一個に細繩を通し軒端に吊り充分に之を乾燥するなり日を經るに隨ひ煙の爲めに眞黑に煤けたるを採り來り再び湯にて之を煮て其軟きを適度に些しの甘味を加へ盃に盛りて之を食ふ宛も西洋料理のパンに當るものと知るべし又鮭鱒の類を乾物として多く之を貯ふ富めるは倉庫に數百尾を藏するあり最も氣の毒に見ゆるは小兒の食物なり三度の食事外に雜菓子を食ふべき所に爺媼の釣り得たる小魚を炙り鹽氣もなく砂糖氣もなきを其まゝ之を舐り食ふは憫むべきあり酒は男女老若の差別なく之を嗜むこと最も甚だし某が神居古潭を越へ伊能橋に行きたる時橋際にて逞しき土人一個泥醉し居たるを見たり酒屋の女主は頻りに之を叱り人間と云ふ者はそんなに酒を飲むものにあらずと云ひ聽したるに彼れは髯の邊々として体格の逞しきにも似もやらず手を揚げて詫び居たる有樣は可笑しくも亦憫れに感せりと靜岡衛生報告に見へたり

## 漢堡港虎列剌再發

獨逸漢堡港に於て虎列剌再發したる由にて本年一月

十八日及十九日の香港「デイリープレッス」に左の二電報を掲載したり

漢堡港に於て虎列剌再發して人心胸々たり同港の商業は是より或は衰退するに至らんかと恐る者多し(十二月廿二日倫敦發電報)

漢堡港の虎列剌は益々蔓延する摸樣にして商業は爲めに大に損害を被れりと(同月廿九日仝上)

## 麻疹と實布垤里亞

府下昨今寒氣の甚だしき爲めか感冒にかゝる者非常に多く就中小兒は多く感冒より實扶垤里亞に變し或は發熱と共に發疹し是等輕き麻疹患者は追々増加の傾きあるよし

## 柳下衛生課長の歸京

曩に天然痘視察として北海道外二縣下へ出張を命せられたる柳下衛生課長は實地視察濟にて一昨十九日歸京せられしが同課長の巡回せし地方の内北海道函館、札幌及根室等の各地に於て天然痘に係りしもの殆んど千人以上に及びたりといふ

## 衛生課長の天然痘談

衛生局衛生課長柳下士興氏今回各地天然痘流行の摸樣視察の命を受けて去二十四日東京出發二十六日大坂に着し直ちに大坂府廳に就きて衛生掛と之に關する面議をなし二十七日奈良に抵りて又當地に來れり昨日午後更に福岡に赴き是亦右の視察をなし來る十日ごろ歸京せんとす其談ずる所に據れば何れの地も天然痘に罹るは初種痘濟の者、十五歳以上殊に二十五歳前後の者に多し大阪にては相應なる種痘所の常設もありて豫防に手落なき筈なるに亦其流行を見る是生計の度低き人力車夫日傭人の如き夫婦に子女數人ありて其一人天然痘に罹るも夜は他の健康の子女と寢具を同しくし遂に數人皆之に感染りて近隣にも及はし就中人力車夫は乗客前掛の毛布を夜は天然痘

病者に被せ痘腹液の着きたるを搆はず甚は又乘客の前掛となして爲に傳播の媒介をなすなどに因ることならん村落に至りては費金支出の論談に豫防の機を失ひて圖らずも蔓延せしむることもあらん元來天然痘は夏に衰へ冬に熾なるものなれども防禦宜しきを得ば大抵四箇月にして撲滅に就くべし故に今回も此際撲滅し盡かざれば來る十月十一月の頃に及び又々流行するならんとのことなりと

## 梅毒蔓延

梅毒の恐るべきは喋々を待たざれども近頃府下に於ては梅毒大に蔓延し已に昨春の今春に於ける同患者は殆んど一倍の多きに及び四宿に於ける驅黴院は孰れも滿員ならざるなし右原因は全たく府下各區内に於ける賣淫婦の増加したるが爲なりとて其筋に於ては之に注目せられ其驅り立に着手したるに僅か四日間に引致したる者數百人にして倘引立てらるゝ者陸續ありといふ實に嘆ずべきことにぞある

## 三人不具

### 麹町の奇兒

埼玉縣北足立郡二宮村の志村たつ(十八)と云ふは去る頃より麹町二番町の長島産婆學校へ入院し居たるが四五日前産氣附しに余程の難産にて漸々に生み落したる嬰兒は不思議にも腹部より背にかけて陰部と覺しき穴二ヶ所と男根に似たる物左右に一ツ宛ありて實に奇異なれども産婦は勿論嬰兒も無事に育つ樣子なるが其時立合し醫科大學の栗原氏は參考の爲其子を貰ひ受けんと乞ひたれど産婦は自分にて育てんと言ひ居るよし

### 生れながら歯の揃つた子

仙臺市二十人町に住む何某の妻が此程生み落したる兒は生れながらにして上下とも美事に歯が揃ひ居る奇兒ありしと

缺脣にして鼻のない子

濃州多藝郡高田町平念寺住職の娘(みつゐ)二十が去る十一日產み落したる女の子は缺脣にして鼻なく頭の下邊に僅かに鼻に類似の者あるものにて實に奇妙なる顏付なるより去る十八日大坂の見世物師が來りて買ひ受けたしと申込み目下百廿五圓まで直を付け居るよし

## 傳染病患者

◎東京府　一昨二日腸窒扶私患者は日本橋區男二人牛込區男一人本所區男一人荏原郡男一人
赤痢患者は京橋區男一人質布的里患者は神田區女一人日本橋區女一人芝區女一人牛込區男一人淺草區男一人
痘瘡患者は麻布區男一人荏原郡男一人あり

◎群馬縣　去月廿一日より同廿七日まで屆出の天然痘患者は合計六十三人死亡二十八人にして昨年十一月一日以降患者總計千二百二十三人內死亡三百十二人あり

◎和歌山縣　本年一月より二月廿八日まで患者總數二百八十四人にして內死亡總數四十七人ありといふ

## 北米合衆國陸軍文庫大に我が醫學に關する各新聞雜誌類を購收せんとす

東京市赤坂榎坂町米國公使館內ドクトル、ダブルユ、エヌ、ホイトニーなる名義を以て往復「はがき」にて左の如く本會事務所へ申込みたり

拜啓今般北米合衆國陸軍文庫より貴國に於て發刊する處の醫學に關する各新聞雜誌類を送附すべき旨依賴し來り候に就ては本年一月御發刊の分より十二月に至る一ヶ年間貴會(社)御發行の雜誌を左記へ御送附相成度候也

追而一ヶ年前金額幷に郵稅等至急御通知相成度然らば早々送金可致候

東京市赤坂榎坂町米國公使館内
ドクトル、ダブルユ、エヌ、ホイトニー

## 本會錄事

◎二月例會　二月十二日(第二日曜日)午後一時より麹町區飯田町五丁目富士見倶樂部に於て例會を開く醫學士山谷德次郎君には實扶埵里亞病毒に就て寫眞及顯微鏡等を以て種々説明せられ次に醫學士賀古鶴所君には吃生同伴にて實地矯正法を行はれ且從來吃生たりしもの丶演説(賀古醫學士の矯正法を受け治癒したる事及吃の困難なる事等)あり右終り午後五時散會せり

### 耳鼻及喉頭科治療法　附吃匡正法

余偶々會用にて賀古醫學士の宅(神田裏猿樂町三)を訪へり折しも患者室に滿ち助手三四名と共に各所に於て施術中なりしか氏は耳科、喉頭科、鼻科等に關することは專門にして我國に於て此三科の業を始められたるは實に去廿三年の春赤十字社病院に於て治療せられたるを以て嚆矢とす又吃匡正法に就ては曾て墺國ウヰンナに於て同氏の經驗せられたるものにして至極簡短なるものあり世の同病を患ふる者は早く同氏の治療を受けて平素の苦悶を散せられよ

◎醫學士山谷德治郎君には前會に於て出演せられたるが其後又本會雜誌の爲め盡力せられ以後每月新説雜報等寄送せらる丶との事あり

## 入會者

◎二月より三月六日に至る入會員宿所姓名左の如し

◎幹事西き代子の紹介により

下谷區上野花園町十一番地　特別　赤松貞子
京橋出雲町十六番地　通常　福原とく子
仝　竹川町十番地　仝　池上とく子

◎幹事中野悦子の紹介により

芝南佐久間町三丁目十五番地　通常　大谷ひさ子
麻布飯倉町二丁目七番地　特別　末川すみ子
赤坂靈南坂廿三番地　仝　押川ひろ子
芝高輪東町卅八番地　仝　伊藤ちせ子
芝公園地二十四号　通常　橋口きよ子



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎會員川勝たね子の紹介により
南豊島郡澁谷村赤十字社病院 通常 加藤ふみ子
仝 小谷千勢子
仝所 仝 太田なみ子

◎評議員加藤すゞ子の紹介により
本郷湯島新花町五十九番地 通常 津田令夫人

◎評議員楠幸子の紹介により
本郷森川町一番地 通常 呉みな子

◎副會長濱尾作子の紹介により
小石川音羽町七丁目十番地 特別 鳩山春子

◎贊成員齋藤澤吉君の紹介により
神田鍛冶町 通常 松屋竹代子

◎幹事馬渡たま子の紹介により
麹町紀尾井町六番地 通常 岡野いく子

◎會員条ふみ子の紹介により
本郷第一醫院 仝 荒川よし子

◎會員菊岡さい子の紹介により
本郷第一醫院 仝 佐生けい子

◎會員備内いわ子の紹介により（前号掲載之分脱漏）
新潟縣新潟市古町通六間町八番戸 通常 横内みつ子

◎地方會員川村元子の紹介により
廣島縣廣島市西寺町四十五番邸 坪島すへ子

◎事務所へ申込により
牛込市谷船河原町十四番地 奈良はな子
本所横網二丁目十三番地 上村らく子

◎評議員大澤さく子の紹介により
本郷天神町二丁目九十六番地 通常 今田初子

◎幹事村岡久野子の紹介により
麹町一番町十七番地 通常 橋本ちせ子

◎贊成員山谷德治郎君の紹介により
神田猿樂町二十三番地 通常 角田榮子

## 轉居

本郷弓町一丁目十一番地へ
岩手縣森岡市内丸十二番戸へ
神田猿樂町十一番地へ
麹町下二番町十一番地へ
北海道札幌北三條西四丁目甲分号へ
肥前國佐世保本町八百四番地へ
神田西小川町一丁目七番地へ
本郷弓町二丁目八番地へ
愛媛縣松山病院内へ
京橋區日吉町二十番地へ
麹町區元園町二丁目四番地へ

岡田和一郎君
岡田とく子
河村孝子
鈴木まさ子
喜多山せつ子
酒勾治子
森園子
森村みち子
塩崎みつ子
俊野いわ子
植郡妙子
丘邑喜代子

## 正誤

前号雜誌轉居之部細川部子番地神奈川縣三浦郡横須賀町は浦賀町の誤植

## 退會者

安藤まち子
曾山のぶ子
坪野貞子
佐々木ふさ子

# 私立大日本婦人衛生會規則

（明治廿五年九月改正）

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し
　但事務所は下谷區練塀町四拾三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす
　但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす
　尤も會員中貧生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し
　但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員（無會費）とすることを有可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會に左の役員を置く

第九條　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名
　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命す
　但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る
　但幹事の分課を設けて　第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くとあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外每月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　每會學識經驗ある者を聘し講議演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し每月各一册つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす
　但し演說の間に談話を交ゆることあるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第十七條　講義演説の際男子の傍聴を禁ず
但會員に縁故ある男子は此限りにあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす
但些少の金額は口々の費用支出の爲め事務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又は員會外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に掲載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し
但不得止場合には郵便券を代用するも妨けなし尤も一割増とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便券二錢を添ふ可し

第廿三條　毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の増減等を報告す可し
且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す
但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　毎年三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得
但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便券にて納むる者は右受領證遞送費として郵券二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條　入會後轉居する者は速に事務所に通知ある可し尤も死去の節は親戚知友等より通知ある可し

第三十條　退會せんとする者は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

明治二十五年九月　日

東京下谷區練塀町四十三番地

私立　大日本婦人衛生會

東京下谷區練塀町四十三番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
東京麹町區三番町六十七番地
編輯兼發行人　巖本善治
東京麹町區上二番町四十三番地
印刷人　八木吉六

神田區旅籠町廣業館印刷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN